

吉分大魯(よしわけたいろ・・蕪村の弟子)の句
高井几董(たかいきとう)と同じ時代を生きた俳人

すくなしと山僧いへり杜鵑

「俳句は呟きである」の見本のような句。
すくなしと言ったことで、ほととぎすの聲がかえって際立つ。

物おもふ人のみ春の炬燵哉

春炬燵に入っている人はどの人もものおもいに耽っているように見えるというおもしろみ。

ふらついて瓢かたまる軒端哉

瓢がいくつもいくつも軒に下がっている。お互いにぶつかるともぶつからないとも、瓢に「きもち」があるようで可笑的。